

- 問1 16世紀のヨーロッパで行われた宗教改革の背景や影響について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
1. カルバンは、カトリック教会の儀式をより豪華にすることで、信者の信仰心を高めるべきだと主張した。
 2. 宗教改革の結果、ヨーロッパのキリスト教勢力はカトリックに統一され、宗派間の対立は完全に解消された。
 3. ルネサンスによる人間中心の考え方は、カトリック教会の権威をより一層強固にする役割を果たした。
 4. ルターは聖書のドイツ語訳を行い、誰もが聖書を読めるようにすることで、教皇の権威を介さない信仰を広めた。
- 問2 15世紀末、ポルトガルのバスコ・ダ・ガマは、アフリカ大陸の南端にある喜望峰を経由してインド西岸に到達する航路を切り開きました。当時、ヨーロッパの人々がこのようにアジアへの海路を求めた背景として、地中海を経由した従来のアジアとの直接取引を独占し、大きな利益を得ていた商人たちの組み合わせとして正しいものを、次から選びなさい。 (2021年 山口県公立入試 類似)
1. イスラム商人とスペイン商人
 2. イギリス商人とイタリア商人
 3. イスラム商人とイタリア商人
 4. イギリス商人とスペイン商人
- 問3 1587年、九州平定を終えた豊臣秀吉は、キリスト教の宣教師に対して国外退去を命じる「バテレン追放令」を出しました。この政策がとられた背景と、その後の実態について述べた文として最も適切なものはどれですか。 (2026年 神奈川県公立入試 類似)
1. キリスト教の拡大が自身の支配の妨げになると判断して命じたが、南蛮貿易の利益は確保したかったため、実際の追放は不徹底に終わった。
 2. オランダを除くすべての外国船の来航を禁止する厳格な体制を整え、宣教師だけでなく外国商人もすべて国外へ追放した。
 3. 宣教師から得られる新しい技術や文化を高く評価したため、キリスト教を保護し、南蛮貿易をよりいっそう促進する目的で出された。
 4. 農民の武装を解除する政策と同時に実施され、キリスト教徒による一揆を完全に封じ込めることで、兵農分離の体制を完成させた。
- 問4 豊臣秀吉による刀狩（武具の没収）と、全国の土地の広さや収穫量を調査した太閤検地によって進められた、武士と農民の身分を明確に区別する仕組みを何といいますか。 (2022年 岩手県公立入試 類似)
1. 下剋上
 2. 檀家制度
 3. 封建制度
 4. 兵農分離
- 問5 1587年、豊臣秀吉は宣教師の国外追放を命じる「バテレン追放令」を出しましたが、その後もしばらくの間、キリスト教の禁止は徹底されませんでした。その理由として最も適切な説明を選んでください。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)
1. ヨーロッパ諸国との間に、キリスト教の布教を認める正式な外交条約を結んでいたため
 2. 宣教師が日本国内の寺社を修復し、仏教を保護することを約束したため
 3. 当時の有力な大名たちの多くがキリスト教を信仰しており、秀吉が彼らの反乱を恐れたため
 4. ポルトガルなどとの南蛮貿易による利益を重視し、貿易船の来航は認めていたため
- 問6 1575年に現在の愛知県で起きた戦いにおいて、織田信長・徳川家康の連合軍が、当時最強といわれた武田氏の騎馬隊を破りました。この戦いにおいて、織田軍が組織的に活用することで勝利を決定づけた武器として正しいものを選びなさい。 (2018年 愛知県公立入試 類似)
1. 大砲
 2. 鉄砲
 3. 弓矢
 4. 日本刀
- 問7 15世紀以降、地球は丸いという考えに基づいた航路開拓が進む中、カトリック教会がヨーロッパ以外の地域で積極的に布教活動を行った背景として最も適切な説明はどれですか。 (2025年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 宗教改革の影響でヨーロッパ内での支持を失いつつあったため、新たな信者を獲得して勢力を立て直そうとしたから。
 2. ルネサンスの影響で科学的知識が普及したため、キリスト教の教えが科学的に正しいことを証明する資料を求めていたから。
 3. 十字軍の遠征が失敗に終わり、イスラム勢力に対抗するための軍事同盟をアジアの諸国と結ぶことが急務となったから。
 4. プロテスタントの諸国と協力して、世界中に共通のキリスト教義を広めることで、ヨーロッパ内の紛争を解決しようとしたから。
- 問8 戦国時代において、関所の廃止や楽市・楽座などの政策を推し進めた織田信長は、自身の印章に、武力によって天下を統一し統治するという強い意志を示す言葉を刻みました。この印章に刻まれた言葉として適切なものはどれですか。 (2017年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 天下布武
 2. 生類憐みの令
 3. 太閤検地
 4. 公事方御定書
- 問9 16世紀のドイツにおいて、ドイツのルターやスイスのカルバンらが、ローマ教皇の権威や免罪符（贖宥状）の販売を批判して始めたキリスト教の改革運動と、その結果として新しく生まれた宗派の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
1. ルネサンス — ヒューマニズム
 2. 十字軍 — イスラム教
 3. 宗教改革 — カトリック
 4. 宗教改革 — プロテスタント
- 問10 16世紀半ば、戦国時代から安土桃山時代にかけて行われた南蛮貿易において、日本がヨーロッパ諸国から輸入した品物と、日本から輸出した品物の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2016年 香川県公立入試 類似)
1. 輸入：砂糖・石油・機械
輸出：絹織物
 2. 輸入：茶・仏像・銅銭 輸出：硫黄
 3. 輸入：生糸・鉄砲・ガラス製品
輸出：銀
 4. 輸入：香料・陶磁器・木綿
輸出：金
- 問11 豊臣秀吉による宣教師の国外追放（バテレン追放令）に関連して、当時の外交や宗教政策について説明したものとして正しいものはどれですか。 (2022年 山形県公立入試 類似)
1. 秀吉は宣教師を追放する一方で、国内の仏教勢力を抑えるために、各地の藩校にキリスト教の教義を取り入れるよう命じた
 2. 秀吉はキリスト教の布教を制限したが、ポルトガルとの南蛮貿易自体は利益をもたらすものとして継続を認めた
 3. 秀吉は宣教師を追放すると同時に、長崎を唯一の窓口とする鎖国体制を完成させ、オランダ以外のヨーロッパ諸国を完全に排除した
 4. 宣教師の追放をきっかけにキリスト教が完全に消滅したため、秀吉は後にキリシタンを摘発するための踏絵を全国で実施した
- 問12 豊臣秀吉がバテレン追放令を出してキリスト教の布教を制限しようとした一方で、南蛮貿易自体は完全には禁止しなかった理由として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 宮崎県公立入試 類似)
1. スペインやポルトガルの軍事力が非常に弱く、警戒する必要がなかったから。
 2. 明との正式な国交を回復するために、ポルトガル船の仲介が必要だったから。
 3. 南蛮貿易によって得られる鉄砲や生糸などの貿易上の利益を重視したから。
 4. 宣教師たちが日本の伝統的な神社仏閣を保護しようと協力していたから。
- 問13 明智光秀ゆかりの地である福知山市の資料などでは、光秀亡き後に天下を統一した豊臣秀吉の政策が紹介されることがあります。秀吉が、それまで曖昧だった武士と百姓の身分を明確に分けるために実施した、代表的な2つの政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2018年 京都府公立入試 類似)
1. 太閤検地と刀狩
 2. 惣無事令と御成敗式目
 3. 身分統制令と参勤交代
 4. 検地帳の作成と浮世絵の奨励

答え合わせ・解説

問1	答え 4 ルターは聖書のドイツ語訳を行い、誰もが聖書を読めるようにすることで、教皇の権威を介さない信仰を広めた。	ルターは「万神父主義」を掲げ、信仰の唯一の根拠を聖書に置きました。当時、ラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、印刷術の普及によって民衆に広めたことが、宗教改革が急速に拡大した大きな要因の一つです。スイスのカルバンは予定説を唱え、商工業者の営利活動を肯定するなど、ルターとは異なる背景で改革を推し進めました。
問2	答え 3 イスラム商人とイタリア商人	15世紀当時、アジア産の香辛料は非常に高価な商品でしたが、その取引は中東地域のイスラム商人と、地中海貿易を支配していたイタリアの諸都市（ベネチアなど）の商人によって独占されていました。ポルトガルなどの国々は、これらの中間商人を介せずにアジアと直接取引を行うことで莫大な富を得ようと考え、大西洋からアフリカを南下する新航路の開拓を目指しました。
問3	答え 1 キリスト教の拡大が自身の支配の妨げになると判断して命じたが、南蛮貿易の利益は確保しなかったため、実際の追放は不徹底に終わった。	豊臣秀吉は、九州平定の際にキリシタン大名が宣教師に土地を寄進している実態などを知り、キリスト教の結束力が自身の全国統一や支配の障壁になると危惧しました。一方で、ポルトガルやスペインとの「南蛮貿易」によって得られる経済的・軍事的利益（鉄砲の原料である硝石の輸入や銀の輸出など）は継続したいという意向があったため、貿易を優先して宣教師の活動を黙認する形となり、この時点での追放令は徹底されませんでした。この「宗教への警戒」と「貿易の重視」という矛盾が、初期の外交政策の特徴です。
問4	答え 4 兵農分離	刀狩で農民から武器を奪い、検地で耕作者を確定させることで、戦う役割の「武士」と、農業を担う役割の「農民」がはっきりと区別されるようになりました。これにより、戦国時代のような下剋上の風潮が収まり、近世の安定した社会構造が形成されました。
問5	答え 4 ポルトガルなどとの南蛮貿易による利益を重視し、貿易船の来航は認めていたため	豊臣秀吉は、九州平定の際にキリスト教の広まりや宣教師が寺社を破壊している状況を目の当たりにし、バテレン追放令を出しました。しかし、同時に南蛮貿易による経済的利益や軍需品の入手を重視していたため、貿易船の来航は禁止しませんでした。貿易と布教を明確に切り離すことが困難であったため、結果としてキリスト教の禁止は不徹底なものにとどまりました。
問6	答え 2 鉄砲	織田信長は、種子島に伝来した鉄砲の有用性にいち早く注目しました。長篠の戦いでは、大量の鉄砲を揃えるだけでなく、足軽を組織して集団で一斉に射撃させるという、当時としては画期的な戦術を導入しました。これにより、機動力に優れた武田軍の騎馬隊を圧倒し、戦国時代の合戦のあり方を大きく変えることとなりました。
問7	答え 1 宗教改革の影響でヨーロッパ内での支持を失いつつあったため、新たな信者を獲得して勢力を立て直そうとしたから。	宗教改革（対抗宗教改革）の時期、カトリック教会はプロテスタントに奪われた勢力を補うため、大航海時代による地理的知識の拡大を利用して世界規模での布教を試みました。これは、単なる宗教的情熱だけでなく、教会の組織維持や勢力回復という明確な目的を持った組織的な動きでした。
問8	答え 1 天下布武	織田信長は、古い慣習を打ち破り、経済を活性化させることで自らの軍事力と権力を強化しました。彼が用いた「天下布武」という言葉には、武家の政権を樹立し、自らの力によって社会の秩序を再編するという天下統一への決意が込められています。太閤検地は豊臣秀吉、公事方御定書は徳川吉宗、生類憐みの令は徳川綱吉によるものです。
問9	答え 4 宗教改革 ― プロテスタント	ルターは免罪符の販売に対して「九十五条の論題」を発表して批判し、信仰のよりどころをローマ教皇の権威ではなく聖書に求めました。この運動は宗教改革と呼ばれ、従来のローマ・カトリック教会から分離した新しい宗派は「抗議する者」を意味するプロテスタントと呼ばれます。
問10	答え 3 輸入：生糸・鉄砲・ガラス製品 輸出：銀	南蛮貿易では、ポルトガル人やスペイン人が東南アジアや中国の拠点を経由して日本と取引を行いました。日本からは当時世界有数の産出量を誇った銀が大量に輸出され、見返りとして戦国大名たちが求めた鉄砲や火薬、さらに中国産の生糸やヨーロッパの珍しいガラス製品などがもたらされました。茶や銅銭の輸入は日宋貿易や日明貿易の特徴であり、砂糖や石油などはより後世の貿易品です。
問11	答え 2 秀吉はキリスト教の布教を制限したが、ポルトガルとの南蛮貿易自体は利益をもたらすものとして継続を認めた	豊臣秀吉はキリスト教の布教が支配の妨げになると考えて宣教師の追放を命じましたが、一方で南蛮貿易によってもたらされる富や軍事物資（硝石など）は必要としていました。そのため、貿易そのものは禁止せず、布教と貿易を切り離して進めようとしていました。完全な鎖国の完成や踏絵の実施は江戸時代の出来事であり、また秀吉が藩校にキリスト教を取り入れるような政策を行った事実もありません。
問12	答え 3 南蛮貿易によって得られる鉄砲や生糸などの貿易上の利益を重視したから。	豊臣秀吉はキリスト教の拡大による領主や民衆の結合を警戒しましたが、南蛮貿易によって得られる経済的・軍事的な利益（鉄砲や生糸など）を必要としたため、貿易船の来航は認め続けました。
問13	答え 1 太閤検地と刀狩	秀吉は、全国規模で土地の生産力を石高（米の量）で表す太閤検地を実施し、農民を土地台帳に登録しました。さらに、刀狩令を出して農民から日本刀や脇差、弓、槍、鉄砲などの武器を没収しました。この2つの政策がセットで行われたことにより、農民は農業に専念せざるを得なくなり、武士と百姓の区別が確立されました。